

講義名	日本事情D			授業形態	
担当教員	福岡 寿美子	開講期・曜日・時間	前期 水曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

日本人学生および留学生が、現代の日本事情、すなわち現代の日本文化および日本社会等について学ぶ。前半は、日本で実際に生活・学習している大学生と留学生との交流に基づき、後半の視点から作成されたテキストを用いて、各テーマについて学ぶ。現代の日本人学生が日本についてどのように考え、留学生に何を発信しようとしているのか、また日本に留学してきた外国人学生が日本の何について知りたがっているのかについて学ぶ。これらの知識をもとに、後半は、日本人学生と留学生が、それぞれペアあるいはグループになってプロジェクトワークを行う。主体的にテーマを設定し、ディスカッションをし、調査、資料収集、情報整理、分析をし、レジュメを作成し、口頭発表を行い、最後にレポートを作成し、冊子体にまとめる。Peer Learning ビア・ラーニングを行う。

到達目標

日本人学生および留学生が、現代日本事情について、ペアワークあるいはグループワークを行うことによって、異文化接触、異文化交流、異文化理解をし、相互理解を深めることができるようになることを到達目標とする。
日本人学生および留学生が、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、調査能力および資料収集能力、情報整理および分析能力、プレゼンテーション能力、レポート作成能力等を高めることができるようになることを到達目標とする。
課題の作成および提出によって、日本人学生は、母語による日本語文章表現能力を高めることができるようになることを到達目標とする。
課題の作成および提出によって、留学生は、外国語としての日本語による文章表現能力を高めることができるようになることを到達目標とする。
日本人学生は、母語としての日本語および自国の文化・社会としての日本文化・社会を、世界の中の一つの言語、文化・社会としてとらえ、発信できる能力を高めることができるようになることを到達目標とする。
留学生は、外国語としての日本語および外国文化・社会としての日本文化・社会を学ぶことができることを到達目標とする。
方法論を学ぶことによって、さまざまな課題を設定し、問題解決能力をつけることができるようになることを到達目標とする。
各到達目標については、課題の提出、口頭発表、中間試験、期末試験等において、その到達度を測る。
日本人学生および留学生が考える学習を行うようになることを到達目標とする。

提出課題

準備学習シート、活動の記録、PPT資料・レジュメ、レポート等、授業中にその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各学生が提出した課題について、チェックおよびコメントを行い、次の授業において、講評、解説等を行い、フィードバックをする。

評価の基準

期末試験（20％）、中間試験（10％）、口頭発表（20％）、課題の提出（30％）、授業参加度（20％）等による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

出欠は毎回とる。
全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。
遅刻3回で1回欠席とする。
15分以上の遅刻は欠席となる。
日本人学生と留学生のペアワークおよびグループワークを行う。
ピア・ラーニングを行う。
プロジェクトワークを行う。
真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.留学生のための日本事情入門 1冊でわかる最新日本の総合的紹介 . 金津日出美・桂島亘弘 文理閣 2,200 9784892597916

その他

『異文化理解入門』原沢伊都夫著 研究社
『インタビュプロジェクト 日本人の価値観発見』山下早代子、小川早百合著 くろしお出版
『日本事情ハンドブック』水谷修、佐々木瑞枝、細川英雄、池田裕織 大修館書店
『21世紀の「日本事情」』21世紀の「日本事情」編集委員会編 くろしお出版
『日本タテコ』学道研究社
『しきたり』国際日本語研究所編
『日本で暮らす』日本語ジャーナル編集部編 アルク
『体験しよう！日本語』K E I国際交流協会編 アブリコット
『日本文化ビジュアル事典』近藤珠實監修 池田書店

授業計画

第1回：イントロダクション
授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法、自己紹介ゲーム、他
第2回：『留学生のための日本事情入門』1冊でわかる最新日本の総合的紹介
第3回：『留学生のための日本事情入門』1冊でわかる最新日本の総合的紹介
第4回：『日本人の食生活』、『日本人の暮らし』1冊でわかる最新日本の総合的紹介
第5回：『留学生のための日本事情入門』1冊でわかる最新日本の総合的紹介
第6回：『留学生のための日本事情入門』1冊でわかる最新日本の総合的紹介
第7回：『留学生のための日本事情入門』1冊でわかる最新日本の総合的紹介
第8回：中間理解程度試験の実施およびその解説、他
第9回：プロジェクトワーク：テーマの選択、検討、決定、他
第10回：プロジェクトワーク：調査、資料収集、情報整理・分析、他
第11回：プロジェクトワーク：レポートの構成、執筆、作成、他
第12回：プロジェクトワーク：口頭発表の準備、ハンドアウト作成、他
第13回：プロジェクトワーク：口頭発表1 ディスカッション、評価、他
第14回：プロジェクトワーク：口頭発表2 ディスカッション、評価、他
第15回：総復習および期末試験について、課題提出、他

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

指示された読みもの、調べもの等について、準備学習（予習）を、毎回2時間行ってください。
授業で学んだことを基に、まとめ等の実践学習（復習）および課題等を、毎回2時間行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題発行・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる。
仲間と協働して、問題を話し進めることができ、他者との意見の違いや立場・考え方の違いを理解し、協力して物事を進めることができる。
必要な日本語能力およびコミュニケーション能力を身につけ、活用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考